



総説 宇宙天気

柴田一成・上田洋介 編著

京都大学学術出版会 660頁 6,000円 専門書

読み物
お薦め度
5
☆☆☆☆☆

学問的には専門書であるが、本の帯にあるように、“宇宙の「嵐」と地球環境：観測と予報の理論と実践を基礎から詳説”のほうがわかりやすい。「宇宙天気」が特に問題になるのは、小惑星「いとかわ」から、その組成の資料を削り取ってきた宇宙探査船「はやぶさ」の場合など、どこにどんな障害が出現するか予測困難な場合であろうが、程度の違いや根源的な宇宙物理的な機構の違い、時間尺度の違いを含めると、地球環境・宇宙環境にはさまざまな「宇宙天気」の問題がある。最近では、ダークマター・ダークエネルギーなど不完全な宇宙論的問題が新聞にも出るが、これら宇宙年齢的な問題は本書の問題ではなく、もっと身近な太陽・太陽系・地球環境の問題とその基礎の宇宙物

理学および宇宙天気予報が主題である。私も昔、尾崎洋二、安藤裕康、柴橋博資さんらと日震学を始めた経験や、松島 訓さんの弟子であるJ. ハンセンやA. レイシスが東大天文学教室へ武者修行に来て、今のCO₂地球温暖化の基礎になる理論を当時それと知らずに私どもの研究室で覚えて帰ったことや、いま常田佐久さんらによる「ひので」衛星で太陽磁場フィラメントの動きの精密測定しているゼーマン線の偏光の測定理論を作ったことなど、「宇宙天気」を拝読して思い出が尽きない。最近の理論、観測の成果が網羅されており、基礎から学ぶことのできる著書である。

海野和三郎（東大名誉教授・
東京自由大学学長）